

# ワークショップ(座談会)って、何(?!?)

これまでの地域づくりでは、国・県・市町といった公共的な主体が、主導となって行ってきました。しかし、こうした行政主導の地域づくりが、有効な結果を生み出さなかった要因には、住民が十分に関わることができなかったことがあげられます。

住民主体による地域づくりを具体化する有効な方法のひとつとして登場したのが、ワークショップです。ワークショップは、もともと「仕事場・工房・作業」を意味しますが、最近では「参加型の研究会」といった意味に使われることが多くなりました。

ワークショップは、一方的な住民説明会や講義・講演会とは違い、参加者全員が、地域の実態・課題を共有し、自由にアイデア・意見を出しながら目指すべき方向を見いだしていく作業(場)なのです。

## ★ワークショップの流れ



## ★こんな良いことがあります!

- ① **気づきと見直し**  
いろいろな人の発想や意見に刺激され、日頃見過ごしていた課題にあらためて気づき、見直しができます。
- ② **自分の考えを全体の中で確認できる**  
自由な論議を深める過程で、テーマについて、さまざまな視点から考える力を養い、自分の考え方を全体像の中で確認できます。
- ③ **多様な考えがまとめられる**  
参加者の多様な知恵やアイデアを合意形成の形でまとめることができます。
- ④ **プロセスの共有**  
話し合いの過程や成果を参加者全員で共有することができます。
- ⑤ **感情的な論争を避けられる**  
感情的な衝突を避け、「誰が発言したか」より「何が問題か」を中心に議論が進められます。
- ⑥ **多様な人びとの交流**  
地域住民のコミュニケーション、活動グループ間の交流の場にもなります。

# ワークショップの基本ルール

- ① 他人の意見も否定しない … 多様な考え方を認め合う
- ② 全員参加の原則 … それぞれの持ち味を生かして関わる
- ③ 楽しさや感性も大切に … 理屈だけで考えない
- ④ 一人ひとりが主役 … 参加者の対等な関係を前提に
- ⑤ 自由な発想も存分に生かす … 固定概念にとらわれない
- ⑥ 相乗効果を感じる … 集団作業によるあらたな創造

## ☆ワークショップ(座談会)について☆

● **ワークショップの進め方について**  
ワークショップでは、1テーブルにつき、以下の役割分担を行って頂きます。

- ① 進行役 … 進行を行い、皆の考え方を聞き取りします (皆で支援します)。
- ② メモ役 … 付せんを張替え、出る意見をマジックでグループ化、追記します。
- ③ 発表役 … 皆の意見を整理し、発表して頂きます (準備は皆で協力します)。
- ④ まとめ役 … 発表後、全体のとりまとめを行います (各テーブルを自由に行き来して頂きます)

※司会役(時間管理)は平櫛(ひらくし)が行います。

